

## 現在の「道の駅」 第3ステージとは！

### ■道の駅コンセプトの変遷

「道の駅」は、「道路にも鉄道の駅のようにトイレがある駅があってもいいのではないか」ということで、1993年に制度が発足し、発足当初の「第1ステージは」道路利用者の休憩の場として。その後、第2ステージ」の観光の目的地として。そして現在、あらゆる多様な世代が集まる地方創生拠点の「第3ステージ」へと変遷し、発足から進化し続けています。

#### 第1ステージ（1993年～）◎道路利用者のサービスの提供の場

「道の駅」は、「通過する道路利用者のサービス提供の場」として、道路利用者への安全で快適な道路交通情報を提供することと、地域振興に寄与することを目的とし、道路利用者が安心して休憩できる場を提供。

#### 第2ステージ（2013年～）◎観光の目的地

「道の駅」制度発足から20年で1005駅となり、この時点を1つの区切りとして、地域の創意工夫により、『道の駅自体が観光の目的地や地域の拠点に発展』する施設として位置付けられました。

#### 第3ステージ（2020～25年）◎地方創生の拠点・ネットワーク化・インバウンド

各「道の駅」における自由な発想と地元の熱意の元で、観光や防災など更なる地方創生に向けた取り組みを、官民の力を合わせて加速します。更に、「道の駅」同士や民間企業、道路関係団体等とのつながりを面的に広げることによって、元気に稼ぐ地域経営の拠点として力を高めるとともに、新たな魅力をもつ地域づくりに貢献します。  
※全国 道の駅 1209 箇所登録（R5 年 8 月現在）

【新たな機能】・新たなインバウンド観光拠点・防災拠点・あらゆる世代が活躍する地域センター等

「道の駅」が活力を呼び、雇用を創出、地域の好循環へ

地域外から活力を呼ぶ  
ゲートウェイ型

インバウンド観光「道の駅」  
外国人案内所、免税店、無料公衆無線LAN、  
EV充電設備、海外対応ATM 等

観光総合窓口「道の駅」  
地域全体の観光案内、宿泊予約窓口 等

地方移住等促進「道の駅」  
地方移住のワンストップ窓口  
ふるさと納税の情報提供 等



地域の元気を創る  
地域センター型

産業振興「道の駅」  
地方特産品のブランド化、6次産業化 等

地域福祉「道の駅」  
診療所、役場機能、高齢者住宅 等

防災「道の駅」  
広域支援の後方支援拠点、防災教育 等

### ■国の主な支援メニュー（※交付金事業にかかる国の補助割合）

|       |                                              |       |                                                |
|-------|----------------------------------------------|-------|------------------------------------------------|
| 総務省   | 地域経済循環創造事業交付金※1/2                            | 国土交通省 | 社会資本整備総合交付金（道路等）※1/2                           |
|       | 過疎地域遊休施設再整備事業※1/3                            |       | 集落活性化推進事業※1/2                                  |
| 農林水産省 | 農山漁村地域整備交付金のうち、農村集落基盤再編・整備事業・中山間地域総合整備事業※1/2 | 内閣府   | インバウンド受入環境整備高度化事業※1/2                          |
|       | 農山漁村活性化プロジェクト支援交付金※1/2                       |       | インバウンド安全・安心対策推進事業※1/2                          |
|       | 6次産業化ネットワーク活動交付金※3/10                        | 経済産業省 | デジタル田園都市国家構想交付金※1/2<br>（地方創生拠点整備タイプ、地方創生推進タイプ） |
|       | 離島漁業再生支援交付金※1/2                              |       | 次世代自動車充電インフラ整備促進事業※1/2                         |

※総事業費を10とした場合、負担割合は 国5、起債4、**町負担1** となります。

（活用する補助金により、町の負担割合が変わる場合があります。）

## ～上島町ゆめしま海道 道の駅構想～

上島町を元気に！  
みんなが集い、未来につないで  
いくための拠点を！

### ■拠点施設としての機能が期待される道の駅

上島町では、町内の魅力や地域産業、地域資源を活かした町内外交流の活性化により、地域の賑わいを創出し、人口や産業従事者の減少に歯止めをかけるため、上島町をPRし、人が集い交流し、町を未来へつないでいくための拠点施設が必要ではないかと考えています。

現在、「上島町にふさわしい拠点とはどういうものか」、また、そのひとつの手段としてさまざまな国の補助金などの支援が受けられる「道の駅」として整備してはどうか」を協議しています。



### ■道の駅検討協議会・プロジェクトチーム

上島町においては、本年度から国・県にも加わっていただいている「上島町ゆめしま海道路道の駅検討協議会」、および「上島町ゆめしま海道路道の駅構想プロジェクトチーム」を立ち上げ、視察などによる調査・研究（道の駅」設置が適切かどうか）を行っています。

※過去に実施した会議資料などは上島町ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

### ■道の駅整備による効果・目的

上島町には、愛媛県内1位の出荷量を誇る「弓削のり」、「青いレモン」、「レモンポーク」、「鯛」などのほか、各地区で採れる新鮮な特産品や、多くのサイクリストが訪れる「ゆめしま海道」など、豊富な地域資源があります。**第3ステージは物販以外の目的に重点を置いており**、本町において道の駅を設置した場合の効果について次のことが考えられます。

① **地域の賑わい創出**  
住民や観光客が集まり賑わいが生まれる。

② **子どもからお年寄りまで安心して過ごせるコミュニティ施設**  
子どもからお年寄りまでさまざまな人が集まることにより、世代を超えた交流が生まれ、安心して過ごせるコミュニティ施設としての機能が期待できる。

③ **地産地消による地域経済活性化**  
農海産物を地域内消費することにより、農漁業従事者の所得増加が期待でき、加工品や飲食店の出店により、地域全体の経済が循環し、活性化します。

④ **働く場所の確保**  
販売・清掃・調理スタッフなど、新たな雇用の機会が生まれる。

⑤ **観光活性化**  
観光情報の提供などを行うことで、観光客が上島町内を周遊する時間が増え、消費の拡大、宿泊者の増加が期待できる。

⑥ **防災機能充実による安心できる拠点確保**  
地域住民や道路利用者、外国人観光客も含め、他の防災施設と連携しながら安全・安心な場を提供することができ、災害時、国・県・町での情報の早期共有や、関係機関の支援を受けるための拠点として期待できる。

### ■これまでの経過と今後の動き

今後は、これまでのポテンシャル調査やアンケート調査の結果に加え、第3ステージや離島、先進地、しまなみエリアなどの道の駅の視察による調査報告を踏まえ、上島町にとつてどのような拠点が適切なのか、必要ないのか、プロジェクトチームおよび協議会で検討していきます。

**この道の駅構想は、現在、可能性を探っている段階で設置場所なども未定です。事業化を決定しているわけではなく、町民の皆さまにご意見をいただきながら方向性を出していきます。**